

目 次

資料5-1 生涯学習センターの概要

1	建設目的	・・・1
2	建設経過	・・・1
3	建設概要	・・・1
4	平成25年度運営方針・重点事項	・・・1
5	組織体制の変遷	・・・2
6	職員勤務体制（平成25年度）	・・・3
7	開館時間及び利用料	・・・3

資料5-2 群馬県公共施設のあり方検討委員会の検討結果を受けた改善策について

1	基本的な運営について	
(1)	情報公開	・・・4
(2)	外部の声の把握・反映	・・・4
(3)	経費削減	・・・6
(4)	ボランティアの確保と質の向上	・・・6
(5)	視聴覚センターのあり方	・・・7
2	生涯学習振興について	
(1)	市町村支援及び指導者養成	・・・9
(2)	主催事業参加者の増加	・・・10
(3)	センター独自の取組	・・・10
3	少年科学教育推進について	
(1)	事業連携	・・・12
(2)	魅力あるおもしろ科学教室	・・・13
(3)	イベント充実による参加者増加	・・・14
(4)	きめ細かな広報活動	・・・14
(5)	学校利用プログラムの作成	・・・16
(6)	開館時間の変更	・・・17
4	貸館について	
(1)	貸館の必要性と指定管理者制度導入の検討	・・・18
(2)	料金改定による利用者増加	・・・19
(3)	利用者の拡大	・・・19
(4)	予約方法の改善	・・・20
(5)	休館日の拡大	・・・20

資料5-3 今後の取組の方向

1	基本的な運営について	・・・22
2	生涯学習振興について	・・・22
3	少年科学教育推進について	・・・22
4	貸館について	・・・23

資料5－4 別添資料

1	貸館利用者アンケート実施結果（抜粋）	・・・24
2	貸館利用団体アンケート実施結果（抜粋）	・・・27
3	平成25年度少年科学館利用意識調査結果	・・・28
4	少年科学館おもしろ科学教室利用者・少年科学館来館者アンケート	・・・29
5	課題解決支援を目的とした学習プログラム開発研究フローチャート	・・・30
6	魅力あるおもしろ科学教室の主な連携機関	・・・31
7	少年科学館学習利用プログラム	・・・32
8	おもしろ科学教室教材事例（リニアモーターカーを作ろう）	・・・34
9	指定管理者制度導入他県施設アンケート調査結果	・・・36

資料5－5 参考資料

1	生涯学習センターの施設設備の概要 （平成25年度要覧より抜粋）	・・・38
2	平成25年度事業計画 （平成25年度要覧より抜粋）	・・・43
3	歳入・歳出予算額、決算額推移	・・・50
4	入館者の推移	・・・51

I 生涯学習センターの概要

1 建設目的

群馬県生涯学習センターは、県民の生涯にわたる学習活動を促進し、もって県民文化の創造及び振興に寄与するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条の規定に基づき前橋市に設置される。

2 建設経過

- ・昭和57年 5月 群馬県生涯教育体系化推進協議会を設置
- ・昭和59年 6月 群馬県生涯教育推進基本構想策定
- ・昭和59年11月 群馬県生涯教育センター（仮称）建設基本計画策定委員会を設置
- ・昭和62年 3月 群馬県生涯学習センターの設置及び管理に関する条例公布
- ・昭和62年10月 群馬県生涯学習センター開館
- ・昭和63年 4月 群馬県生涯学習情報提供システム（パソコン通信方式）運用開始
- ・昭和63年 5月 少年科学館科学展示室オープン

3 建設概要

- ・敷地面積 26,582.44 m
- ・建築面積 4,686.74 m²
- ・延床面積 10,360.28 m²（含む体育館）
- ・構造規模 鉄筋コンクリート一部鉄骨造4階建
- ・工期（建築）着工 昭和61年7月24日 竣工 昭和62年7月31日
（外構） 竣工 昭和62年10月15日
- ・工事費等 総工事費 約25億円

4 平成25年度運営方針・重点事項

(1) 運営方針

群馬県生涯学習センターは、本県の生涯学習推進の中核的施設として、市町村及び関係機関・団体と連携を図りながら、県民の多様な学習ニーズや社会の要請に応える事業の総合的な推進、少年科学館を活用した県内の少年科学教育の推進など、あらゆる世代の人々が学ぶ喜びを実感できる社会の形成に向けて、多様な生涯学習活動の支援に努める。

(2) 重点事項

ア 生涯学習環境の整備

市町村・関係団体等との連携により「ぐんま県民カレッジ」の充実に努めるとともに、県民自らが講座情報等を発信できる「まなびねっとぐんま」の普及・定着を図る。

また、学習拠点となる社会教育施設等の人材育成やICT活用支援を進める。

イ 社会の要請への対応

家庭や地域における子育て環境の変化に対応した家庭教育電話相談、家庭教育指導者の養成及び活動支援等、家庭教育や子育て支援の充実に努める。

また、社会の急激な変化に対応できる自立した個人や地域社会の形成を目指し、県民の課題解決や社会参加を促進する学習機会を提供する。

ウ 少年科学教育の推進

子どもの科学する心や学ぶ意欲を育てるため、少年科学館の展示物やプラネタリウムの活用を促進するとともに、子どもが学校外で身近に科学に接する機会である「おもしろ科学教室」の充実に努める。

6 職員勤務体制（平成25年度）

(1) 勤務時間

- ・館長（非常勤嘱託職員） 週4日29時間勤務（基本：火曜日～金曜日9:00～17:15）
- ・副館長ほか正規職員 週5日38時間45分勤務
（基本：火曜日～土曜日8:30～17:15）
- ・非常勤嘱託職員 週4日29時間勤務
- ・臨時職員 月14日・7時間45分／日勤務
（緊急雇用：週5日38時間45分勤務）

(2) 交替制勤務

- ・A勤務（火曜日～土曜日13:15～22:00）
正規職員1名＋非常勤嘱託職員1名
- ・B勤務（日曜日・祝休日等8:30～17:15）
正規職員各係1名＋各係非常勤嘱託職員及び臨時職員交替勤務
- ・昼当番（火曜日～日曜日8:30～13:00、14:00～17:15）
受付窓口：正規職員1名＋総務係臨時職員1名
情報相談フロア、少年科学館受付：非常勤嘱託職員及び臨時職員交替勤務

7 開館時間及び利用料

(1) 開館時間

- ・生涯学習センター 9:00～22:00（日・祝日は17:00まで）
- ・少年科学館 9:30～17:00
- ・情報相談フロア 9:00～17:00
- ・育児学習室 9:30～17:00

(2) 休館日

- ・月曜日（祝休日の場合はその翌日）
- ・年末年始（12月27日～1月5日）
- ・少年科学館のみ整備点検日（毎月1回火曜日）
※その他、開館時間・休館日は臨時に変更することがある。

(3) 利用料金

- ・参考資料1施設設備の概要「3 施設等使用料」のとおり

Ⅱ 群馬県公共施設のあり方検討委員会の検討結果を受けた改善策について

平成20年10月同委員会でとりまとめられた検討結果で、生涯学習センターは、本県における生涯学習の拠点施設として、広域的な学習情報提供、指導者養成、先進的な学習プログラム開発・実施等、市町村や各種団体等に対する指導的な役割を担うべき施設であり、その設置目的は、今日においても失われておらず、施設の今後のあり方としては、継続すべきとされた。

しかし、貸館事業については、市町村の役割である公民館的な要素が強く、県と市町村の役割分担の観点から、その必要性を検討する必要があるとされ、職員体制、事業内容、部分的な指定管理者制度の導入など検討すべき課題があるとされた。

また、県民のために施設の有効活用を図るべく、これまでの慣例に固執することなく、管理運営の徹底した見直しと利用者増加の積極的な努力が求められた。

これを受け、平成21年度以降の事業展開にあたり、「基本的な運営」「生涯学習振興」「少年科学教育推進」「貸館」について対応策を立て、平成25年度を最終年とする「4年間の見直し計画」を作成した。

これまで計画を着実に遂行し、目標達成に向けた取組を行ってきた。

以下は、その実現のための見直し計画及び取組状況である。

1 基本的な運営について

(1) 情報公開

施設の現状について積極的な情報公開を行う。

<対応策>

ア 施設の利用状況・収支状況等をホームページで公開する。

イ 主催事業の情報をホームページで公開する。

<検討・取組結果>

ア 入館者、歳入歳出決算、観覧料、使用料等減免状況について冊子による情報公開に加えホームページで公開し、情報公開を継続している。

イ 施設、貸館利用者の要望や意見を聞くためのアンケートを実施し結果をホームページで公開している。

ウ 主催事業の実施概要及びアンケート結果をホームページで随時公開している。

(2) 外部の声の把握・反映

広く県民の意見を聞き、施設運営に生かす。

<対応策>

貸館や少年科学館の事業（学校利用・おもしろ科学教室等）について、アンケートを実施し、次回へ反映するサイクルを構築する。

<検討・取組結果>

ア 常設のものとは別に様式を定めた各種アンケート（P5◇貸館利用者アンケート（一般県民用）～◇少年科学館おもしろ科学教室利用者アンケート（一般県民用）を参照）を別途実施し、結果を分析して改善を図っている。

イ 館内に「ご意見箱」を設置して利用者からの要望や意見を聴取している。（P5◇常設のご意見箱で要望のあった事項例を参照）

ウ 広く県民各層の意見を反映させるために運営会議を設置・開催し、改善に生かしている。

エ 利用者の要望が多かった予約方法を改善した。

オ 主催事業の参加者アンケート調査に記載された意見を取り入れて、講座にワークショップ形式の学習プログラムを取り入れた。

* アンケート実施項目例（実施結果抜粋は別添資料1）

◇貸館利用者アンケート（一般県民用）

H22年度実施

項目例

- ・ あなたの性別はどちらですか。
 - ・ あなたはどちらにお住まいですか。
 - ・ どのくらいの頻度で利用していますか。
 - ・ どのような活動（目的）で利用していますか。
 - ・ どのような経緯で利用するようになりましたか。
 - ・ 生涯学習センターにはどのような役割があると思いますか。
 - ・ 生涯学習センターの満足度（評価）について。
- （項目：施設全体、職員の対応、利用手続き、使用料金、使用料金値上げ）
（項目：使用料を値上げした場合の利用回数、利用時間）
- ・ 科学館を平日ご利用していただくに当たり、ご要望等をご記入ください。
 - ・ 施設の必要性についてどのように思いますか。
 - ・ あなたが思っている当施設の総合的な印象について。

※結果についてはP24資料1参照

◇貸館利用団体アンケート

H25年度実施

項目例

- ・ 団体名（サークル名、代表者）。
 - ・ 活動内容、活動日、活動時間、活動場所。
 - ・ 会員の構成（住所地、男女別構成比率、年齢構成）
 - ・ その他センターへの意見や要望。
- ・ 会費の有無及び額

※結果についてはP27資料2参照

◇少年科学館学校利用アンケート（利用団体用）

H22年度から継続実施

項目例

- ・ 今回少年科学館を利用したのはどんな理由からですか。
- ・ 来館した時間帯についてご記入ください。
- ・ 滞在した時間についてご記入ください。
- ・ 利用した施設や学習プログラムについての満足の程度をご記入ください。
- ・ その他、意見や要望をご記入ください。

※結果についてはP28資料3参照

◇少年科学館おもしろ科学教室利用者アンケート（一般県民用）

H22年度から継続実施

項目例

- ・ 記入した人は次のうち、どなたですか。（子ども・保護者・その他）
- ・ 今日のおもしろ科学教室は楽しかったですか。
- ・ また、おもしろ科学教室に参加したいですか。
- ・ 今日のおもしろ科学教室に参加した感想を書いてください。

※結果についてはP29資料4参照

◇常設のご意見箱で要望のあった事項例

- ・ 施設が古く設備の改修を行って欲しい。
- ・ 少年科学館の展示物やプラネタリウムのリニューアルを行ってほしい。（一部改善）
- ・ 来館者用コピー機周辺に明かりを設置して欲しい。（改善実施済）
- ・ 受付窓口のテーブルを広くして欲しい。（改善実施済）

(3) 経費削減

施設全体での経費削減に努める。

<対応策>

ア 館運営の経費削減を実施するとともに、利用者の理解と協力を求め、光熱水費を毎年対前年度230千円削減する。

イ エスコ事業*の実施による省エネルギー施設改修を行い、光熱水費を削減する。

* エスコ事業とは施設の省エネ改修と維持管理を包括的に民間委託する事業。光熱水費、CO₂排出量及びエネルギー使用量の削減が目的

<検討・取組結果>

ア 館運営費の見直しを行い歳出予算を削減した。

消耗品を積極的に再利用するとともに環境美化ボランティア及び職員による構内庭園整備等の実施や、警備委託等の内容見直しなどにより館運営費の削減を図っている。

イ 利用者へ協力を依頼した。

省エネ、節電協力依頼の館内への掲示やホームページへの掲載を行うとともに利用者に空調利用時における小まめな温度調節や強運転の自粛を依頼した。

ウ 平成24年4月からエスコ事業サービスを開始した。

エスコ事業の実施に伴い定期的に検証ワークを行い、中間期の延長や柔軟な温度設定等の効率的な運用に努め、光熱水費、CO₂排出量及びエネルギー使用量を削減した。

○ 電力使用量(kWh) 月別データ【H22年度以降】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電力使用量 (kWh)	H22年度	46,314	35,214	45,126	60,090	65,928	67,866	40,650	44,322	49,482	39,348	55,908	44,802	595,050
	H23年度	34,464	26,820	35,268	56,832	56,658	53,142	34,140	33,348	45,828	38,784	54,709	79,745	549,738
	H24年度	67,363	35,294	42,305	58,608	76,810	76,670	48,262	44,362	74,282	73,313	107,546	81,823	786,638
	H25年度	54,874	38,758	45,223	57,756	64,306	61,522	34,570	34,634	70,130	72,310	97,958	83,604	715,545
H22同月比 削減率(%)	H23年度	▲25.6%	▲23.8%	▲21.8%	▲5.4%	▲14.1%	▲21.7%	▲16.0%	▲24.8%	▲7.4%	▲1.4%	▲2.1%	+78.0%	▲7.6%
	H24年度	+45.4%	+0.2%	▲6.3%	▲2.5%	+16.5%	+13.0%	+18.7%	+0.1%	+50.1%	+86.3%	+92.4%	+82.6%	+32.2%
	H25年度	+18.5%	+10.1%	+0.2%	▲3.9%	▲2.5%	▲9.3%	▲15.0%	▲21.9%	+41.7%	+83.8%	+75.0%	+86.6%	+20.2%

○ ガス使用量(m³) 月別データ【H22年度以降】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ガス使用量 (m ³)	H22年度	5,850	503	10,035	19,053	19,415	13,941	3,193	6,511	9,536	12,458	11,688	9,855	122,038
	H23年度	3,174	146	6,683	13,951	13,067	10,246	1,828	4,641	11,256	12,402	12,488	230	90,112
	H24年度	130	92	84	72	71	70	92	170	181	193	233	200	1,588
	H25年度	127	100	87	84	75	79	80	153	175	231	195	210	1,596
H22同月比 削減率(%)	H23年度	▲45.7%	▲71.0%	▲33.4%	▲26.8%	▲32.7%	▲26.5%	▲42.7%	▲28.7%	+18.0%	▲0.4%	+6.8%	▲97.7%	▲26.2%
	H24年度	▲97.8%	▲31.7%	▲99.2%	▲99.6%	▲99.6%	▲99.5%	▲97.1%	▲97.4%	▲98.1%	▲98.5%	▲98.0%	▲98.0%	▲98.7%
	H25年度	▲97.8%	▲30.1%	▲99.1%	▲99.6%	▲99.6%	▲99.4%	▲97.5%	▲97.7%	▲98.2%	▲98.1%	▲98.3%	▲97.9%	▲98.7%

* 使用料金では単価等の変動があるため、増減比較が容易な使用量により比較した。

(4) ボランティアの確保と質の向上

地域住民やボランティア等との連携を図る。

<対応策>

ア 子育て支援ボランティアの専門的な知識向上のため、研修体制の整備・充実を図る。

イ 少年科学館において大学生ボランティアや理科専門ボランティアによる人員確保と質の向上を図る。

<検討・取組結果>

ア 館運営に係るボランティア

環境美化ボランティアを募集して地域住民とともに構内環境を整備している。

イ 学習振興関係事業ボランティア

(ア) 従来から子育て支援ボランティアが自主的に開催していたボランティア研修会を、ボランティア相互の意見交換と専門家のアドバイスを含めたボランティア交流会に改め、さらなる資質向上に努めた。

- (イ) 家庭教育カウンセリング専門講座の修了者に対する子育て支援ボランティアへの登録については、継続して協力を依頼している。
 - (ウ) 情報収集ボランティアが作成した資料集について、利用者の意見を聴くため、意見箱を設置し、資料の収集・編集に活かしている。
 - (エ) 館内ボランティア各自が加入していたボランティア保険を生涯学習センターが経費を負担して一括加入した。
- ウ 少年科学館ボランティア
- (ア) 理科専門ボランティアを確保するために、地元大学や専門学校の担当者と連絡・調整している。
 - (イ) ボランティアの業務に対する資質の向上を図るために、次のような取組を行っている。
 - a 受付や展示等の解説業務に関する研修や、実験コーナーの指導のための実技講習を業務開始前に実施している。
 - b 取組の意識を高めるために、ボランティアの実施日数が規定に達した者に感謝状を授与している。



育児学習室での子育て支援ボランティア



ボランティアによる来館者への対応

(5) 視聴覚センターのあり方

視聴覚センターの設置目的の適時適切な見直しを行う。

<対応策>

情報相談フロア（視聴覚センター）について、機能の再検討・再編整備を検討し、今後のあり方の方向性を示す。

<検討・取組結果>

ア 視聴覚センターは、視聴覚教材・機材を活用した生涯学習活動を支援する視聴覚教育の中核施設として多くの県民に有効活用されている。さらに、利用者の増加を図るため、学校や社会教育団体等を対象として、教材・機材の貸出、メディア変換、記憶媒体へのコピーなどのサービスを充実させた。

イ 技術の進歩や利用者のニーズに対応した教材・機材を充実させた。

ウ 利用者を増やすための広報活動を行った。

エ 使い易さを向上させるため、フロアの案内表示を改善した。

◇取組事例

教材の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚資料選定委員会を開催して、新たな教材を購入した。 H22（28本）、H23（26本）、H24（24本）、H25（12本）
機材の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・液晶プロジェクターを増設した。 ・ipod 再生対応CDラジカセへ更新した。 ・貸出用ノートパソコンを増設した。 ・DVD、ビデオの館内視聴用テレビを液晶テレビへ更新した。
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚センター広報用チラシを作成し、各社会教育施設へ配布した。 ・館内へPR用ポスターを掲示した。 ・小中学校向けの教材一覧を作成し、各市町村、小中特別支援学校へ配布した。 ・視聴覚センターのPRと教材の活用を目的にぐんまファミリー映画会を開催した（年4回）。

◇教材・機材の貸出状況

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
視聴覚教材	3,135	3,115	2,993	3,002	2,262
視聴覚機器	671	457	431	460	517

2 生涯学習振興について

(1) 市町村支援及び指導者養成

市町村を支援し、高度で専門的な知識を有する指導者を養成する施設としての位置づけを強化する。

(1)－1 人材育成

<対応策>

市町村社会教育行政職員をはじめ、各種団体の指導者を対象とした研修講座の充実を図る。

<検討・取組結果>

ア 社会教育を担う人材育成を目的とした社会教育推進セミナーで、ワークショップ形式の研修を取り入れるなど、講座内容を充実させた。

イ 視聴覚教育メディア研修については、ソフトウェアの進歩やSNS*（ソーシャルネットワークサービス）の普及に対応させた講座を開催した。

* SNSとは、個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。

ウ 市町村が主催する生涯学習推進指導者養成講座の講師として職員を派遣した。

(1)－2 市町村格差・学習機会格差是正

<対応策>

各教育事務所と連携した県内各地での出張型事業の積極的な取組を行う。

<検討・取組結果>

各教育事務所と共催で市町村等の社会教育施設の担当職員を対象とした「社会教育推進セミナーⅡ」を西毛地区、北毛地区、東毛地区で開催した。

(1)－3 調査研究機能の強化

<対応策>

社会の変化に適切に対応するための市町村社会教育行政実態調査、社会の要請に応じた先導的プログラム開発を行う。

<検討・取組結果>

ア 「課題解決支援学習プログラム研究開発会議」を2年間開催し、研究テーマを設けて、地域課題を解決するための人材育成等を目的とした実践的な学習プログラムを研究開発した（P30資料5を参照）。

イ 市町村社会教育担当課と中央公民館等を対象に、社会教育を担う人材育成のための学習プログラム開発に向けた調査を実施した。

(1)－4 連携推進

<対応策>

県民の高度な学習ニーズに応えるため、ぐんま県民カレッジ連携機関である大学、高校等との連携推進を図る。

<検討・取組結果>

ア 高崎経済大学、前橋商業高校等と連携して、現代的・社会的な課題解決の支援を目的とした学習プログラムの開発研究を行い、研究報告書を各市町村へ送付した。

イ 群馬大学、高崎経済大学、前橋工科大学、前橋国際大学、高崎健康福祉大学、東京福祉大学及び前橋商業高校の教官等に講座の講師を依頼し、人材の活用と県内講師の発掘を行った。

ウ 群馬大学及び県立女子大学の学生を社会教育実習生、インターンシップ生として受け入れ、指導した。

エ 前橋商業高校及び伊勢崎商業高校の生徒を高校生インターンシップ生として受け入れ、指導した。



シンポジウム型講座



ワークショップ型講座

(2) 主催事業参加者の増加

参加者を増加させるための取組を行う。

<対応策>

主催事業の参加定員の増加と広報による事業周知を徹底して、参加者の増加を図る。

【数値目標】主催講座の定員：605人（21年度）→ 665人（25年度）[10%増]

<検討・取組結果>

ア 事業実施計画を前年度に決定して、早期に事業案内チラシを作成、配布するとともに、ホームページで公開した。

イ 講座定員を増やすとともに、各講座が意図する対象者への広報活動に努めた結果、講座1日当たりの実参加者数を増加させた。

主催講座の定員実績（25年度）：690人 [14%増]

◇主催講座の開催日数、定員及び実参加者数の推移

年度	開催日数 (日)	講座定員 (人)	実参加者数 (人)
H21	30	605 (20.2)	889 (29.6)
H22	31	740 (23.9)	1,183 (38.2)
H23	29	750 (25.9)	1,096 (37.8)
H24	28	735 (26.3)	1,005 (35.9)
H25	23	690 (30.0)	1,018 (44.3)

注：（ ）内は1日当たり

(3) センター独自の取組

生涯学習振興のため、テーマを設定し、センター独自の取組を行う。

<対応策>

新しい地域づくりや地域の活性化のため、センター独自事業の取組を始める。

<検討・取組結果>

現代的、社会的な課題に対応した学習機会の提供と課題解決を担う人材育成を目的として、解決支援講座を企画、開催している。

◇課題解決支援講座の学習領域

学 習 領 域	H22	H23	H24	H25
次世代育成	○			
I C T活用による地域活動	○	○		○
男女共同参画	○	○		
防災・防犯			○	
若者のキャリア形成支援			○	
コミュニティビジネス				○
消費者教育				○
学校支援	○	○	○	○
放課後活動支援				○

3 少年科学教育推進について

(1) 事業連携

県有の他施設との更なる連携を図る。

<対応策>

ぐんま天文台・ぐんま昆虫の森・自然史博物館等とお互いの良さを生かした連携事業・共催事業の拡大を図る。

<検討・取組結果>

ア サイエンスウィーク事業において連携を図っている。

ぐんま天文台やぐんま昆虫の森、自然史博物館等と連携し、子どもたちが科学に親しめる実験や工作等を行える場の充実を図っている。

イ 子ども宇宙教室における連携を図っている。

ぐんま天文台の観測普及研究員を講師として、講演会を年2回実施し、子どもたちの天文に関する興味・関心を高めている。

ウ おもしろ科学教室において連携を図っている。

ぐんま昆虫の森とぐんま天文台を会場とするおもしろ科学教室を事業計画に位置付けて実施するとともに、積極的に情報交換している。

◇サイエンスウィーク事業における連携機関

ぐんま天文台	・天文台職員を講師としてプラネタリウムを使った講演会を実施
ぐんま昆虫の森	・昆虫標本や昆虫に関するパネルの展示
自然史博物館	・化石のレプリカづくりと恐竜の解説、講師：自然史博物館職員
その他	・展示ブースを連携機関ごとに出展 〔県内の農業・工業等の技術センター、工業・農業高校、県内大学（理工学部、教育学部）等〕

◇サイエンスウィーク事業の連携機関による出展の様子（H25年度）



「高崎工業高校土木科」



「群大理工学部」



「自然史博物館」



「日本蛇族研究所」



「サイエンスインストラクター」



「産業技術センター」

(2) 魅力あるおもしろ科学教室

おもしろ科学教室の充実を図る。

<対応策>

指導者育成や新教材開発、関係機関との連携により、おもしろ科学教室の充実を図る。

<検討・取組結果>

ア 科学教室の指導者の育成に努めている。

(ア) サイエンスインストラクターの会*と連携し、複数の指導者が協力して支援し合える指導体制の充実を図っている。

*サイエンスインストラクターの会とは、平成2年より組織された団体で、構成員のほとんどが小学校や中学校、高等学校で理科を担当する教諭であり、県内各地で開催されるおもしろ科学教室の指導者として活躍している。

(イ) 科学教室指導者実技研修会を年2回開催している。

イ 新教材の開発を行っている。

新教材作成委員会を年3回実施し、魅力ある教材を毎年度作成している。委員は、サイエンスインストラクターの会の各支部から推薦された代表者として積極的に開発を推進する体制を築いている。

(教材数：H21年度 121教材→H25年度 149教材に増加)

ウ 関係機関との連携を図っている。

(ア) 年2回の連携機関会議を開催して情報交換を行うとともに、道具類の貸出しなど科学教室の運営を支援している。

(イ) 学校等の理科指導の関係者やインストラクターの会の各支部長等と連携して会員を勧誘している。

(会員数：H21年度：276人→H25年度：296人に増加)

◇開発した新教材

H22 8 教材	①簡単箱カメラを作ろう ②一弦ギターを作ろう ③「歩くモアイ型人形」を作ろう ④「エアホバーでボウリング」をしよう!	⑤君も今から、人体博士だ!! ⑥身近なもので着色しよう! ⑦これぞイリュージョン! ⑧双胴型ポンポン船を作ろう
H23 8 教材	①偏心モーターで変身 ②ペットボトル風車で発電しよう ③きみの肌は大丈夫? ④いろいろ映せるプロジェクターを作ろう	⑤魔鏡を作ろう ⑥炭酸ガスロケットをとばそう ⑦光る葉脈標本のしおりを作ろう ⑧ゆうれいブランコを作ろう
H24 6 教材	①綿アメ製造機を作ろう ②立体で満ちかけする「変身お月様」を作って月の観察名人になろう ③土中の小さな生物を取り出す装置を作り観察してみよう ④のぼるぞのぼる!くねくねクライマーを作ろう ⑤リニアモーターを作ろう ⑥レンズ投影式太陽望遠鏡を作ろう	
H25 6 教材	①浮沈子フィッシングで遊ぼう ②不思議!二段ブラック・ウォールを作ろう ③1秒振り子で時計を計ろう ④ポケットに入るたこを作ってたこ揚げをしよう ⑤おもしろ振り子を作って遊ぼう ⑥メガネレンズで投影器を作って太陽を観察しよう	

(3) イベント充実による参加者増

参加者を増加させるためにイベントを充実する。

<対応策>

関係機関との連携により、少年科学館イベントの魅力アップを図る。

【数値目標：21年度比 111.1% + 1,000人】

<検討・取組結果>

ア 既存のイベントの参加者増に向けて内容の改善・充実を図った。

(ア) 科学するところ連携会議*と連携を図り、サイエンスウィークへの出展団体を増加させた。

*科学するところ連携会議とは、群馬県新エネルギー推進課が事務局を担当して開催される会議であり、県内の科学的な研究に取り組む研究団体や科学に関連する企業などが参加している。

(イ) 県内の各研究団体や群馬大学、工業高等専門学校等の出展担当者に、情報提供し、事前準備・当日の運営を円滑に進めた。

イ 「金環日食」などの特別な天文現象が起こるときには、興味・関心を深めるための新規イベントを臨時的に設定した。

◇既存のイベント例

イベント	内容等 (H25)	H22	H23	H24	H25
サイエンスウィーク	・32団体の協力による出展	8,551	11,623	12,450	14,513
県民の日 ・ 特別企画	・サイエンスキャラバン：企業との連携、科学実験教室を5回実施 ・おもしろ科学教室を午前・午後の2回実施。講師：サイエンスインストラクターの会)	3,374	2,283	2,257	2,042
天体観察会	・「スピカ食」の魅力ある講演会を実施、講師：群馬星の会	252	243	290	283
子ども宇宙教室	・季節毎の星座めぐりについて解説、講師：ぐんま天文台観測普及研究員)	155 (★)	122	297	118

※ H22～25の各年度の数は来館者人数(人)

※ (★)：H22年度の子ども宇宙教室は、宇宙天文教室として実施された際の参加者数である。

(4) きめ細かな広報活動

広報・PRの一層の工夫を行う。

<対応策>

事業の詳細情報について、近隣の学校へのチラシ配布、ホームページやミニコミ誌にきめ細かく広報を行う。

<検討・取組結果>

ア ホームページ(WEB)による広報活動を行っている。

H23年度から継続してホームページの更新を図り、H25年度にホームページの画面を再編集して、携帯電話で閲覧可能に構成し直すとともに、写真や絵を挿入するなどして見やすい画面に刷新した。

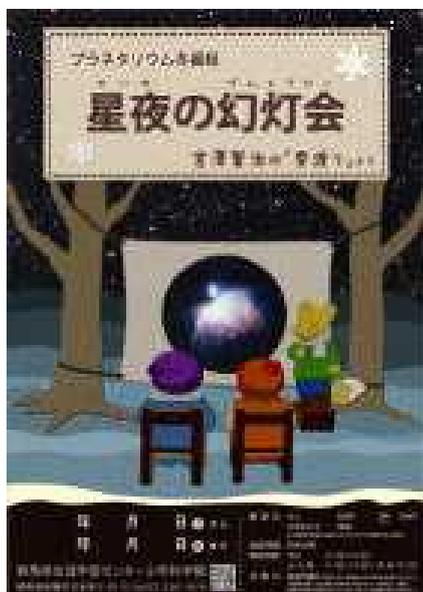
(アクセス数：H21年度 8,252件 → H25年度 17,640件)

- イ チラシ配布による広報活動を行っている。
 イベントの開催に当たり、開催場所の周辺校へ積極的にチラシを配布している。
- ウ ポスター等の掲示物を工夫して掲示している。
 (ア) 科学展示室等にあった古い掲示物を全て貼り直し、色合いや文字の太さなど、見やすい表示に改善している。
 (イ) 広報のための大型ポスターやチラシを工夫して制作している。
- エ 県の広報媒体やミニコミ誌に掲載を依頼して広報活動を行っている。
 「ぐんまちゃんの掲示板」やミニコミ誌などに掲載を依頼している。

◇チラシ等配布物の例

おもしろ科学教室開催 お知らせ(実施地域)	・受付開始時に当月に開催されるおもしろ科学教室の内容や申込み方法等を提示したチラシを配布
プラネタリウム案内	・当月の投影予定のプラネタリウム番組の紹介や、季節の星座解説について提示 ・当館の受付で来館者へ配布
科学館ニュース	・実施されたイベント内容の報告、プラネタリウム番組の紹介、実験コーナーの内容を解説 ・近隣の学校へ配布
各イベントの開催チラシ (子ども宇宙教室等)	・実施される予定のイベント内容、申込み等のお知らせを提示

◇制作した大型ポスター例





(5) 学校利用プログラムの作成

学校教育の一部として利用する仕組みづくりを確立する。

<対応策>

学校利用プログラムを作成し、小学校へ提示し利用向上に寄与する。

<検討・取組結果>

- ア 利用者別に特色のある学習利用プログラムを作成した。
 - ・ 小学校用の学習利用プログラムを作成 (H23年度)
 - ・ 幼稚園・保育園用の学習利用プログラムを作成 (H24年度)
 - ・ 特別支援教育用の学習利用プログラムを作成 (H25年度)
- イ 学校利用プログラムを積極的に活用している。
学校利用説明会や事前視察の際に配布して説明資料としている。
- ウ 利用に役立てるよう学校利用プログラムを紹介している。
小中学校教育研究会理科部会で配布したほか、Webに掲載して利用の際の説明資料として役立てている。

◇学校利用プログラム (利用状況: H21年度 96校→H25年度 155校に増加)

小学校用学習利用プログラム	・天文コーナーや科学実験・科学工作を学級ごとに体験できる例を示してきめ細かな支援を行えるよう配慮
幼稚園・保育園用学習利用プログラム	・園児等が基礎的な学習内容を体験できる例を提示
特別支援教育用学習利用プログラム	・車イスを利用する児童・生徒のエレベーターやプラネタリウムの座席利用の仕方等に配慮 ・プラネタリウムの照明を明るくして投影するなど、来館者の実態に応じた投影に配慮

(6) 開館時間の変更

施設全体での経費節減のため開館時間の変更を検討する。

<対応策>

午前は学校利用専用を開館し、学校利用に特化するとともに、14時から一般向けの開館とし、経費を節減する。

<検討結果>

「開館時間の変更」は以下により実施しない。

【学校の利便性】

- ・ 社会科見学で雨天の場合など、予約なしで少年科学館を利用する学校も多く、利用日の直前や当日などの利用申込みに対応できる環境づくりは、利用の利便性の面から必要不可欠である。

【一般利用者の利用】

- ・ 一般利用者へのアンケートでは、平日の午前中から開館してほしいという意見が強く9割を越える結果であった。*結果についてはP29資料4参照
- ・ 平成24年度の午前中の学校利用は、平日の全開館日数152日中の71%を占めており、一般利用者が利用できない日は29%にすぎないが、利用者の合計数は5,104人であった。
- ・ 「午前中を学校利用専用にする」ことに関しては、当館が社会教育施設として一般の人を受け入れる施設であるため、入館を拒むことが難しい。
- ・ 午前中に不定期に開館することは、一般利用者にとって、いつ利用できるのか分かりづらく利用者が大幅に減少することも考えられる。
- ・ 身体障害者施設や高齢者施設、適応指導教室等が、レクリエーションを行うために受け入れを希望する場合がある。

(障害者利用数 H22 年度 125 人→H25 年度 254 人)

【経費削減】

- ・ 学校利用では、施設の特徴的な利用方法として雨天時の利用もあるが、職員の配置等を考えた場合、いつでも対応できる体制をとることになるため、人員の削減による経費削減はできない。

<取組結果>

上記の検討結果を踏まえた上で、経費節減及び平日の利用者増に向けて以下のとおり改善した。

ア 経費節減対策として次のとおり取り組んだ。

- (ア) 展示室内の電球を順次LEDに更新したり、複数ある展示物を運用面で工夫して使用を制限したりするなど、省エネ効果の高い器具・機器への変更や必要最低限の照明点灯を行った。
- (イ) 職員研修を充実させて勤務に対応できる職員の確保に努めたため、解説員の勤務体制を最小限に抑え、人件費を削減した。

イ 以下の①～⑩のようなイベントを企画・立案し、利用者の確保に努めている。

- | | |
|--|--|
| ①はやぶさ特別展示 (H22 実施) | ⑥子ども宇宙教室特別企画(H24 実施) |
| ②シニアプラネタリウムの実施 (H24
H25 実施→ H26 以降継続予定) | ⑦特別天文教室 (H25 実施) |
| ③理科主任会実技研修会 (H23、H24
実施→ H26 以降継続予定) | ⑧特別投影会 (H24,H25 実施→ H26
以降実施予定) |
| ④社会教育委員研修会 (H24 実施) | ⑨スタンプラリー
(H23、H24、H25 実施→ H26 以降
実施予定) |
| ⑤教育研究所実技研修会 (H24 実施) | ⑩星空と音楽の夕べ (H26 実施予定) |